

2012年3月期第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q 1

通販関連市場について今後の見通しを教えてください。

A 1

通販関連市場は今後も広がりを見せ、鈍化することはないと考えています。個人の購入スタイルがウェブ通販へシフトしているため、小売店から通販市場への荷物の流れ込みは続くだろうと予測しています。

Q 2

宅急便の単価の見通しについて教えてください。

A 2

大口法人顧客の比率が増加に伴い、全体的な単価下落は継続すると思われまふ。しかし市場を細分化すると、小口商流は前年に比べ単価は上がっており、今後も堅調な単価を維持できると考えています。また、通販関連顧客における単価の下落については、輸送距離の短縮化に伴うものでありコストは大きくありません。従って、このまま単価の下落が継続したとしても利益の圧迫にはつながらないと考えています。

Q 3

メール便減収の理由について教えてください。

A 3

メール便減収の理由は、9月以降に請求書等の非取扱いを徹底するための荷受の厳格化を行ったことによる取扱数量の減少であり、来年8月まではその影響が継続する見通しです。

Q 4

中国における宅急便事業の伸びが大きいようですが、今後のさらなる拡大に向けた施策について教えてください。

A 4

華南地域などに事業エリアを拡大し、上海市内で完結しないお客様の輸送ニーズにお応えしていこうと考えています。また、クールに関する物流や納品物流を強化し、納品物流などにおけるロジスティクス業務においても、現地法人と協力した体制を整えて、宅急便だけではない総合的な戦略を推進しています。

Q 5

海外宅急便の赤字幅の実績、通期の予想について教えてください。

A 5

上海、シンガポール、香港の合計で上期 10 億円の赤字実績、通期では 20 億円の赤字を想定しています。

Q 6

人件費のその他の増加理由を教えてください。

A 6

賞与引当金については、昨年の上期が対前年で減益でしたが、本年上期は業績も好調なことから、前年同期と比べて増加しています。次に日雇給与の増加の理由は、ベース作業において社員を抑制し、アルバイトを投入しているからです。日雇給与は増加していますが、作業担当のパート社員の社員給与は減少しています。最後に法定福利費については、従来からお話している通り社会保険料の料率の変更によるものです。

Q 7

費用の通期予想に関して、下期におけるその他費用が 40 億円増加している理由を教えてください。

A 7

デリバリー事業では、宅急便取扱数量増に伴うコンピュータ費の増加、またグループ内取引の増加により 10 億円、その他諸経費も加味して、20 億円の増額をしました。ノンデリバリー事業においては、新規連結で 10 億円、さらに新規事業で 10 億円をそれぞれ増額しています。

Q 8

労働生産性の向上に関して、フィールドキャスト構想の進捗状況について教えてください。また、労働生産性の管理指標について教えてください。

A 8

フィールドキャスト構想を含めた集配改革は順調に進んでいます。そのため、物量が増加したにもかかわらず、生産性の向上により社員給料の伸びをコントロールすることができました。これらの施策はまだ途中過程であり、今後も効果は継続すると考えています。社内の管理指標としては、各 SD の時間当たり集配個数で管理しております。

Q9

中期経営計画における2014年3月期のROE8.5%達成に向けた施策について教えてください。

A9

主に利益率を向上させることで目標達成を目指します。具体的には、デリバリー事業の利益率を向上させるとともに、利益率の高いノンデリバリー事業の割合を向上させます。

デリバリー事業の利益率向上に関しては、ネットワークの進化が中心となります。現在策定中のゲートウェイ構想を推進することで、多頻度輸送、生産性向上、当日配送エリアの拡大を実現し、利益率の向上をはかります。ノンデリバリー事業の割合向上に関しては、現在建設中の羽田クロノゲートが大きな役割を果たすと考えています。現段階では目標数値を変える予定はありません。

以上